

館報
いりやま

平成 28 年 5 月 1 日 現在

世帯数	889 戸
男	1,011 人
女	1,078 人
総人口	2,089 人

地域支え合いシステムの構築に向けた取り組み

①なぜ今、地域支え合いシステムを創るのですか

国は高齢化社会が進んで医療費・介護保険給付費などの増大による財政圧迫に危機感を持っていきます。必要な医療・福祉・安心して暮らせる環境が維持できなくなり、私たちの生活が大変な事態に至ってしまうことが予想されるからです。これを防ぐため国は「地域」の繋がりを見直し、新たに地域住民で支え合うシステムを創り、「誰もが住み慣れた家で・地域で、安心して暮らし続けることができる地域社会」を創ることにしました。

②どのようにしてそのような地域を創るのですか

国はこの事業を推進するため、市町村に「地域包括ケアシステム」を創るよう法律を定めました。松本市は、35 地区ごとに町会長を中心に、行政・医療機関・介護施設など関係する団体等で「地域ケア

会議」を開催し、支え合いの地域づくりに向け、具体的な活動を進めることになりました。



③支え合う地域のイメージはどのようなものですか

ひと昔前の地域社会でしようか。家の周りに住んでいる人、とりわけ高齢者・障害者・子ども・病気の人などに気を配り、不都合な環境の改善に参加することを当たり前にしている、住みよい地域に再生することです。雪かき・ゴミ出し・買物や通院の送迎・散歩等へのサポート・家族への気遣いなど、困っている日常のことを、さりげなく助け合う関係づくりです。今の社会はこう

ます。
④入山辺地区のシステムづくりはどのように進めるのですか
入山辺地区では、地域ケアシステムの導入はまだ早いと言った声もあります。なぜかと言いつと、入山辺は人々の絆がまだまだ強く、日常的に支え合いが出来ていると思われるからです。しかし、高齢化率は 42 パーセントを越え地域の活力は衰えて来ています。人口減少・交通対策・後継者不足など、高齢者の生活が次第に不便になって来ている現状です。そのようなことから、この入山辺でも「支え合う地域づくり」が急務となつていきます。
入山辺地区には 13 の町会があります。各町会は数常会等に区割りされ、さらに回覧板を回す「隣組」に細分化されています。この隣組と呼ばれる地区組織は、平均した 5 世帯くらいの範囲です。実はこの隣組こそが、昔ながらの地域の絆の原点です。入山辺では、この「隣組」を支え合いのベースとして、「地域支え合いシステム」を構築していきます。
(民生・児童委員協議会長 平林八郎)

路線バス廃止!

アルピコ交通から、路線バスの入山辺、中山、三才山の 3 線を 9 月末で廃止したいと、市に申し入れがありました。松本市は、廃止する場合に「地域主導型」の代替バス運行を住民側に提案する考えです。路線バスに替わる交通手段は、「市営バス(四賀・奈川)」「地域バス(四賀)」「コミュニティバス(西部)」「オンデマンド交通」などがあります。入山辺地区の代替え交通手段として何が最適か、これから住民の皆さんと検討をしていかなければなりません。現在町会長さんが利用実態を調査しております。ご意見やご要望がありましたら、お寄せ下さい。



御柱祭り始まる!

諏訪大社系の大和合神社・宮原神社では、御柱の「山出し」が行われました。2 月下旬から見立て、結納、伐採と作業を進め、宮原神社は 4 月 10 日、大和合神社は 4 月 29 日に山出しが行われ、御柱置き場に安置されました。大和合神社の二の御柱は「木落とし」が行われ、祭りの雰囲気盛り上げました。
来月 4 月に行われる「建立祭」が楽しみです。



平成 28 年度 入山辺公民館主要事業

- ◎ 5 月 29 日 (日) 町会対抗球技大会
 - ◎ 7 月 23 日 (土) 第 29 回親子ひろば
 - ◎ 9 月 11 日 (日) 第 33 回市長杯争奪球技大会 大会東山ブロック予選
 - ◎ 10 月 9 日 (日) 第 59 回市民体育大会
 - ◎ 10 月 16 日 (日) 第 89 回大運動会
 - ◎ 10 月 30 日 (日) 第 40 回文化祭 (町会対抗ゲートボール大会)
- ※その他各種講座や事業の開催については、随時発行の「入山辺公民館たより」等でお知らせいたします。

